

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.75
2017.11

飛ばなくたって平気よ



冬の始まりを告げるフユシャク

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

素早く動く「クロスジフユエダシャク」のメス

雪がちらつきそうな寒さながらも快晴に恵まれたある日、不思議な姿をしたクロスジフユエダシャクのメスに出会いました。淡褐色で長いマントのような翅を持つオスとは異なり、メスの翅はノースリーブの肩を覆うフリルのようです。手に取ってみるとすんぐりした容姿からは想像できないほど素早く動き回り、危うく手から落ちこちそうになりました。落葉した明るい晩秋の森では、フユシャクのオス達が膝下ほどの高さをヒラヒラと儚げに飛んでいるのをよく目にしますが、飛ばないメスを探すのは至難の業。翅の短いメスを目にして「なぜ飛ばない翅を持ったのだろうか？」と疑問が湧いてきますが、オスに比べてはるかにふっくらとした体や機敏に動く脚にそのヒントが隠されているのかも…。目に見える生きものはめっきり少なくなりましたが、森にはまだまだ“なぞ”がいっぱいです。

What is
"Kurosujifuyuedashaku"?
「晩秋から活動するフユシャク」

シャクガ科
全長：10～14mm 前後(メス)
分布：北海道～九州

主に11～12月頃出現する。
幼虫の食草はミズナラ、クヌギなど。成虫は口吻が退化してエサを食べない。孵化して間もない幼虫は糸を使い、バルーン(マントのような翅のオス)のように移動する。



(マントのような翅のオス)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



とがった頂きが特徴的で遠くからでもわかりやすい

網張から見える 山ノート

9ページ目 烏帽子岳

烏帽子岳 (乳頭山)

標高：1477.5m

位置 (網張 VC から)：西南西

登山適期：6月中旬～10月中旬

特色：秋田駒ヶ岳よりも古い時期にできた火山で、山頂の南東側は崩壊し切り立った崖になっている。山名はその独特な形から名付けられ、秋田県では乳頭山と呼ばれている。

今年の山の紅葉は例年より若干早めで、9月24日の烏帽子岳行事を行った際はすでに山頂周辺が色づいて見頃を迎えていました。今回の行事は講師に県自然保護管理員の山津田さんをお招きしたのでいろいろと心強かったです。

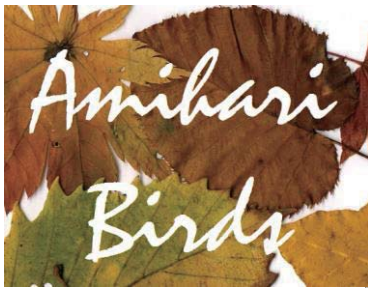
山津田さんは烏帽子岳や千沼ヶ原に登る登山道の管理を続けられて、もう21年になるそうです。行事の下見で一緒にした時は山頂周辺に刈り残しがあるという事で、途中でデポしておいた草刈り機を担いで上を目指しました。気持ち良く安全に登山できるのも額に汗を流して尽力される方がいてこそなんだと、頭が下がる思いでした。今回登った滝ノ上温泉コースは、途中で白沼やマムシ坂と呼ばれる急な斜面を経由します。やや健脚向けではありますが、この素晴らしい登山道をもっと多くの人々が利用すればいいのになと思いました。



山頂立つと、紅葉が移ろいを見せていた 写真提供：荒川 三郎氏



ガンコウラン：高山帯のハイマツ林の林縁や雪田にはえる常緑矮性低木。実は直径8mmほどでほのかに甘みがある。たくさん集めてしまつてジュースにするとおいしいらしい。英名はMountain Crowberry。



アミハリ・バース Vol. 1 8

マヒワ

科名：アトリ科
全長：約12.5cm
生態：冬鳥
分布：日本全国



K. Hirano '17

鳴き声

スズメよりも一回り小さくて、ライムグリーン^{ひび}の羽毛が特徴のマヒワです。明るい黄緑色の色彩は鶺鴒^{ひび}色としても知られています。一昔前、鳴き声が珍重されてマヒワは人によく飼われました。でもすぐにカゴの底に落ちてしまうので、漢名は弱い鳥と書く真鶺鴒^{まひわ}です。自然の中のマヒワは、遠くシベリア方面で繁殖し海を渡って日本にやってくるパワフルな鳥です。網張でも春に北へ向かうおびたしい大群に出会い、あっけにとられた事がありました。基本は針葉樹やカバノキ科の種子が主食の植物食。やせた種子を幾度もつばみ生み出される、何千 km も移動する強い生命力は神秘的ですらあります。

ジュイーン、チュイーン、
ジユクジユク、ツッピン

十和田八幡平国立公園内の温泉を訪ねて

十和田八幡平国立公園のテーマ～みちのくの脊梁～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場～その奥山の湯治場を訪ねます。今回は葛根田溪谷の奥にひっそりたたずむ「滝ノ上温泉」です。

其の四 滝ノ上温泉 岩手、秋田の県境山岳地帯に源を発する葛根田川流域は県内でも屈指の降水量を誇り「あばれ川」と言われてきました。その谷が狭まり巨大なテクトニックの岩床を超えるところに高さ65mの「鳥越ノ滝」があり、八幡平の魅力を全国に紹介することに精力を傾けてきた故村井正衛氏によると、その滝の上部に位置するので「たきのうえ」と呼ばれるようになったそうです。今でこそ舗装された県道 194 号西山・生保内線を通り、車で楽に行けるようになりましたが、以前は篠ヶ森のバス終点から10km余りを歩かなければたどり着くことのできない“秘境の温泉”でした。

それも普通の砂利道ではなく、当時木材搬出に使っていた森林軌道の枕木の間を歩き、運よく列車があれば、便乗して乗ることができたと聞きます。当時は滝のすぐ上流の吊り橋を渡ると現在の園地駐車場の対岸の位置に2軒の自然噴気に包まれたひなびた温泉宿があるだけでした。



葛根田川の豊富な水量に目をつけ、水力発電に利用するために、昭和29年に滝ノ上に発電用の取水設備が完成し、それ以降、鳥越ノ滝の豪快な景観は過去のものとなってしまいました。昭和53年には地下にある高温の「葛根田花崗岩」の地熱を利用した大型地熱発電所が上流部に建設され滝ノ上の雰囲気が一変します。それによって元来自然湧出の食塩泉系統だったもの以外に、ボーリングで地下深部から噴出する蒸気を利用した単純硫化水素系の温水を利用する施設もできました。滝ノ上温泉は秋田駒ヶ岳から烏帽子岳（乳頭山）を経て三ツ石山、裏岩手八幡平あるいは、岩手山方面に向かう縦走路の要の位置に当たり、多くの登山者に利用されてきました。しかし、老朽化の進行や自然災害による被害をたびたび受けたことなどにより、平成29年現在、営業している温泉施設は一軒も見当たりません。国立公園内でも屈指の紅葉を誇り、絶好の登山基地でもある温泉の一日でも早い復活を期待します。



地元の人に もっとビジターセンターを 知ってもらおう！

10月21日～22日の二日間、地元「しずくいし産業まつり」に網張ビジターセンターとして初めて出展しました。観光展コーナーの隅っこをお借りして「ビジターセンターってどんなところ？」「何しているの？」に答えるパネルを展示。楽しい自然クラフト作品や、秋田駒ヶ岳の3Dマップ、風景写真、網張で見られる様々な花や鳥、動物も紹介しました。ファールミニでコケの生態観察ができるようにし、国立公園関連のパンフも用意しました。ブースは予想以上に盛況で、「地元こんな施設あるのを知らなかった」「行って見たい」という声が聞かれました。



網張の森で森林学習 ●● 滝沢市立一本木小学校森林教室 ●●

「網張の森」に突如、森の神が現れました！

9月5日、滝沢市立一本木小学校5年生が森林学習のために森に入ると白いアゴヒゲの森の神様があちこちに登場。おごそかに森の不思議さと大切さを子どもたちに伝えてくれました。実は盛岡森林管理署とビジターセンターのスタッフが急遽手作りして扮装したのですが、子ども達に大受け。環境教育も工夫次第で“楽しく”なることを経験しました。「本当の森の神様ごめんなさい」



10月27日 晩秋の森を目指して「フレンド滝沢」の遠足

滝沢市の適応指導教室「フレンド滝沢」の仲間たちが、今年も網張に来てくれました。仲良し7人組、「ユウちゃん」「アーちゃん」「ナルちゃん」「リョー君」「アイちゃん」「チーちゃん」「ヒロちゃん」。スタッフと一緒に森の自然観察やネイチャーゲームを楽しみ「自然」と「仲間」の良さを再確認しました。



V.C. 行事報告

「この秋もいろんなこと体験しました！」

9/24 「秋の烏帽子岳」

昔、雫石の青年たちがナタと鎌だけで切り開いたという急傾斜の登山道。背後にそびえ立つ岩手山に励まされるように紅葉に染まった山頂を目指しました。参加者総勢 38 名



写真提供：阿部 丕顕 氏

10/22 「秋の網張高原」

ハイキングでリラックス

雨に濡れた網張高原の美しさは絵画のよう。2時間余りのハイキングの後、温泉入浴やペンションでのコーヒーサービスに大満足。参加者総勢 23 名



10/28

国立公園で楽しむ親子の自然体験

「自然クラフト教室」

最初に森の中で気に入った自然素材を収集。その後は、各自で思い思いにフクロウやトンボ、リース、ヤジロヘエ作りに没頭。参加者総勢 12 名



11/12 「アケビのつるで

かご作りに挑戦」

参加者の圧倒的多数を占めたのは、レディ達。頭を使ったり、指を使ったりの大奮闘。オンリーワンの固性的な作品の完成です。参加者総勢 29 名



これからの
網張ビジター
センター
活動プログラム
(予定)



12月23日(土) 冬の網張の森でクリスマス気分(スノーシュー体験)

定員：20名 網張ビジターセンター集合 9:30~12:30 参加費 500円(小学生 300円)

1月20日(土) 国立公園で楽しむ親子の自然体験VI

「相の沢かんじきハイキング」講師：阿部定志氏・広野孝男氏

定員：親子10組 相の沢駐車場集合 9:30~14:00 参加費 500円(中学生以下 300円)

2月14日(水)~18日(日) 第51回いわて雪まつり行事

「スノーシューで体験、岩手山の大展望」

定員：各20名 相の沢駐車場集合 9:30~12:00 参加費 500円(小学生 300円)

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 11. 1~12. 28 ビジターセンター企画展示コーナー — 村上 匠 写真展 —



「昭和の時代-岩手山と八幡平」



村上 匠 氏 プロフィール

◆ ◆ ◆
昭和7年、西山村(現雫石町)長山生まれ。
幼い時よりスキーに親しむ。
昭和34年から雫石町営の「網張館」管理人を務め、プロ写真家の三木慶介氏と知り合う。以後、本格的に山岳写真に取り組む。

モモンガのつぶやき

めっきり寒くなってきましたが、この夏に「炭火でお米を炊いてみよう」行事にスタッフとして参加して以来、すっかり七輪と炭にはまってしまいました。その時の講師の方がお米をとく時の優しい手つき、そのお米が水を吸う時の可愛い音、炭焼き職人の炭にかける愛情の深さ、七輪の中で静かに燃える炭の炎の暖かさ・・・何と言っても電気炊飯器とは全く別物に炊きあがる土鍋御飯の

「甘い味わい」。森に炭に蓄えた時間の分だけおいしさが増すと考えているのは私だけ？

(たくちゃん)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 2, 642人 ◆ 10月 2, 510人
ビジターセンター朝9時平均気温 ◆ 9月 11.4℃ ◆ 10月 5.6℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 9時~17時 冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館